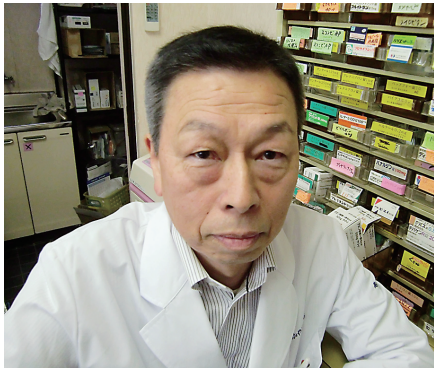


科捜研の仕事と薬学・薬剤師 その2

たかやま薬局、金沢市薬剤師会理事
公認スポーツファーマシスト

高山 成明



元石川県警察科学捜査研究所長。
毛髪からの覚せい剤検出などの研究で薬学博士取得。39年間、薬学で学んだ知識を生かして薬物毒物鑑定を主に担当してきました。
今は妻と2人で薬局調剤の傍ら、公認スポーツファーマシストとしてうっかりドーピング防止のためのお薬相談や講演、学校薬剤師として校内環境（大気・水質など）測定や危険ドラッグなどの講演をしています。

3回シリーズ「科捜研の仕事と薬学・薬剤師」の2回目の本稿では、著者の経験した当時その存在がほとんど知られておらず、法規制もされていなかった新規乱用薬物鑑定について紹介する。

平成〇年〇月〇日、あるホテルの一室にいた男女2人のうち女性が錯乱状態となり、救急病院に搬送された。病院からの通報により、捜査員が男性に事情聴取し、インターネットで購入した粉末をスポーツ飲料に溶かし、2人でコップに入れて飲んだところ、女性の容体が急変したとの情報を得た。

服用した粉末が残っていなかったことから、直ちに2人のいたホテルの部屋を調べ、2つのコップを押収した。救急病院での女性の治療方針決定の必要性もあり、科捜研に緊急鑑定の要請があった。コップには液体が残っておらず、底に粘性のある物質がわずかに付着している状態であった。

薬品販売の自由化の道が開かれるようになり、フリードリッヒ2世の医薬分業令（1241年）以来800年以上も薬局が守ってきた医薬品の独占販売権を2006年にはスーパーマーケットにも譲り渡すことになってしまいました。

この「一般用医薬品販売の規制緩和」によって、スーパーマーケットやパルファマシーと言われる一般用医薬品専門店でも、一般用医薬品が販売されるようになりました。また、それまであまり注目されていなかった一般用医薬品が「規制緩和」の対象になったことで、世の関心が高まるようになりました。そして、関心の高まりと共に需

科捜研化学係では、女性が錯乱（興奮）状態であるとの情報から覚醒剤と興奮作用のある麻薬（コカイン、MDMAなど）を最初のターゲットとして分析にかかり、3時間ほどで麻薬MDMA検出の第一報を捜査部門に伝えた。

次に女性の尿も病院から届き、同じ

く麻薬MDMAを検出した。さらに男性の尿からも麻薬MDMAを検出した。

後日、男性の購入先から押収した白色粉末の分析も依頼され、当時その存在がほとんど知られておらず、法規制もされていなかったFLEAが大部分で、その500分の1量の麻薬MDMAが含まれることを突き止めた。

新規乱用薬物の動態を解明

さらに解析を進め、以下の事項についても明らかにした。

コップ底の粘性物質からFLEAも検出でき、麻薬MDMAとの割合は正確には求められないが、大部分はF

LEAであったことから、白色粉末とコップ底の粘性物質は同じものである。

両者の尿についてFLEAの存在を詳細に調べたが検出できなかった。F

要も喚起され、あちこちで一般用医薬品が販売されるようになったのです。

さらに言えば、それまでほとんど種類のなかった一般用医薬品も種類が増え、消費者の選択の幅が広がりました。必要な時に必要なものが購入できるようになれば、一般用医薬品を購入する人が増えるようになります。こうなると、薬局も危機感を抱くようになります。一気にポピュラーになった一般用医薬品ですが、消費者の多くが薬局で購入しない傾向が見られるようになったからです。

この機に及んで、イタリアの薬剤師が本気で自らの職能と将来を考えるよ

うになったといえます。ナポリ薬剤師会のサンタガタ会長も、「単に医薬販売者であればよいという時代は終わり、専門家としてより国民の健康全般に関わるサービスを提供する場所として『薬局』を活用する時代になりました。こうした時代のニーズに敏感に反応して、自らの能力を高めていく必要があるのです。ナポリの薬剤師は、この10年をかけて、過去からの決別も含めて大きく変わりました。そして、その核にあるのは、自己研鑽への努力でした」と、社会ニーズを認知するソーシャルリテラシーの向上と教育研修の重要性を強調されました。

LEAに関する論文・学会報告が全くないことから、代謝についても全く分からないため構造類似の薬物を参考に考察し、FLEAを服用しても尿中にFLEAそのものは排泄されず、代謝されて麻薬MDMAとなって排泄されると判断した。白色粉末中に含まれていた麻薬MDMAが尿から検出されることはありうるが、尿中の量から判断して、両者の尿から検出された麻薬MDMAのほとんどがFLEAの代謝物と判断できる。

鑑定に必要な標準品FLEA合成の際に、合成原料に含まれる不純物の影響で意図せずに麻薬MDMAが合成されてしまうという情報を入手したことから、白色粉末中に麻薬MDMAがわずかに含まれる理由として、販売元などで小分けの際に混入した可能性より、不純物を含む合成原料を使ったことで白色粉末に含まれた可能性が大きい。

以上、当時その存在がほとんど知られておらず、法規制もされていなかった新規乱用薬物FLEA（この事件の後、麻薬に指定された）について簡単に紹介したが、このように、科捜研化学係では薬学で得た知識を生かして、危険ドラッグに代表される未知の薬物について探求する機会が多い。

これを読んで、薬学生の諸君が、学んだ知識を生かせる科学捜査への道を選んでくれることを期待する。

医薬分業令を発したフリードリッヒ2世は、シチリア王としてナポリ近隣の街「サレルノ」で、1241年にこの医薬分業令を発令しました。また、フリードリッヒ2世と「ナポリ」との縁も大変に深く、サンタガタ会長が教鞭をとっている「ナポリ大学」を創立したのもフリードリッヒ2世なのです。このように考えると、医薬分業の発祥の地とも言えるイタリアの薬剤師が、その歴史と伝統を脱却して、奮闘している姿を少し丁寧に見てみるのもいいかもしれません。

（次号につづく）



薬のことなら 薬事日報ウェブサイト

『薬事日報』に掲載される記事を中心に、医薬業界のニュースサイトとして成長を続けています。

一般からのアクセスは少なく、閲覧者の多くが医薬業界に属しております。業界の情報収集にご活用ください。

<http://www.yakuji.co.jp>

薬事日報

検索

「薬学生新聞」も
ウェブサイトに公開中!!